

社会政策学会 Newsletter

1997.9.30

No. 13

学会賞選考委員が決まる

今期委員会の選后感として、学会賞候補作品をもれなく集めるためには自薦他薦を積極的に募る方がよい、とのことであった。そのためには早期に委員を選出し会員に周知する必要がある。討議の結果、以下のように5名の委員を選出した。

学術賞受賞者は、前回と同様に参加いただくこととした。また、社会保障、社会福祉分野が手薄であるため、新委員はその分野の専門家を選んだ。

残任委員 相沢與一、山本潔
学術賞受賞者 熊沢誠
新任委員 岩田正美、西岡幸泰

第96回大会（98年春）の企画が決定

幹事会での慎重な討議の結果、第96回大会の企画が以下のように決まりました。なお、開催校は未定である。

共通論題テーマ「日雇労働者・ホームレスと現代日本」

以下は96年12月14日、97年2月22日の幹事会でのコメントを基に一部修正したものである。

1. 主旨

今年春の第94回大会で「日雇労働者とホームレス」の分科会を開催するが、できればこのテーマを拡大、発展させる形で共通論題にのせることを希望したい。今年分科会では実態調査に基づいた報告を基に、現状の正確な把握とそれに対する施策の検討が中心になる。しかし、それだけでは済まない課題を有しているのが本テーマであろう。

たとえば、最近ホームレスの生活保護をめぐる名古屋地裁の判決が出た。それは、これまでの生活保護行政のあり方の是非を問う重大な契機となるのは必至である。また、日雇労働市場への外国人労働者の参入も大きな問題を引き起こしつつある。とくに、中高年労働者との競合が表面化してきているのはその一つである。

日本の高度成長をになった労働者が今、どのような境遇に置かれようとしているのか、当時構築されつつあった社会制度に包摂しきれなかったことが現在、いかなる形で発現してきているのか。これらに対する社会政策的な回答を与えずして20世紀の総括はできないだろう。

幸い、今年春の大会は「アジアの労働と生活」が共通論題としてくまれている。アジアのトップランナーとしての日本の労働者の不安定層がどのように変容してきたのか、また、アジアの労働市場との関わりでみると、いかなる構図が浮かび上がるのか、さらには視野を広げて欧米の状況との比較からすると、どのような特質が抽出できるのか、といった点においてテーマ上、かなり連続性を有すると思われる。

2. 取り上げるべきテーマ

- 1) 課題と方法
- 2) 日雇労働者の高齢化と労働市場
- 3) ホームレスと生活保護行政
- 4) 外国人労働者の流入とその影響
- 5) アジアレベルからみた日本の不安定層
- 6) 欧米の状況との比較、など

学会活動特集

本号は、第94回大会で承認された昨年度の決算と今年度の予算、および同大会時の幹事会記録を収録しました。

1996年度社会政策学会決算書

自：1996年4月1日
至：1997年3月31日

収入の部

項目	決算額	予算額	対予算増減
前年度繰り越し金	2,356,668	2,356,668	0
名簿発行積み立て金	150,000	150,000	0
会費収入	6,329,080	6,580,000	-250,920
利子収入	7,366	25,000	-17,634
雑収入	93,865	70,000	23,865
預り金	690,000	690,000	0
合計	9,626,979	9,871,668	-244,689

支出の部

項目	決算額	予算額	対予算増減
次年度大会開催費	700,000	600,000	100,000
報告要旨集印刷費	138,685	140,000	-1,315
部会主催研究大会費	613,540	700,000	-86,460
非会員報告者交通費等	84,000	150,000	-66,000
大会打ち合わせ交通費等	89,840	150,000	-60,160
部会/分科会補	165,000	300,000	-135,000
叢書編集委員会	24,000	24,000	0
叢書刊行補助費	500,000	500,000	0
内外諸学会分担金	35,000	150,000	-115,000
幹事会費	37,320	100,000	-62,680
本部費	1,004,185	1,220,000	-215,815
人件費	110,120	350,000	-239,880
交通・通信費	235,979	600,000	-364,021
事務費	65,944	50,000	15,944
ニュースレター発行費	363,960	200,000	163,960
雑費	48,182	20,000	28,182
学会賞関係費	281,193	250,000	31,193
業績リスト作成費	200,000	200,000	0
名簿印刷費	211,150	300,000	-88,850
名簿発行積み立て金	0	0	0
年報代金	2,388,840	2,564,700	-175,860
予備費	0	400,000	-400,000
小計	6,472,753	7,748,700	-1,275,947
預かり金	690,000	690,000	0
次年度繰り越し金	2,464,226	1,009,990	1,454,236
合計	9,626,979	9,871,668	-244,689

以上のとおり相違ありません。

1997年5月9日 代表幹事 高田 一夫 ㊟

1996年4月1日から1997年3月31日までの会計の収支状況について監査いたしました結果、上記事項は1996年度の社会政策学会の財政を適正に表示しているものと認めます。

1997年5月9日 監事 島崎 晴哉 ㊟

1997年度社会政策学会予算

自：1997年4月1日
至：1998年3月31日

収入の部

項目	97年度予算額	前年度予算額	対予算増減
前年度繰り越し金	2,464,226	2,073,490	107,558
名簿発行積み立て金	0	150,000	-150,000
会費収入	6,700,000	6,580,000	120,000
利子収入	15,000	25,000	-10,000
雑収入	70,000	70,000	0
預り金	690,000	690,000	0
合計	9,939,226	9,871,668	67,558

支出の部

項目	97年度予算額	前年度予算額	対予算増減
次年度大会開催費	700,000	600,000	100,000
報告要旨集印刷費	200,000	140,000	60,000
部会主催研究大会費	700,000	700,000	0
非会員報告者交通費等	150,000	150,000	0
大会打ち合わせ交通費等	150,000	150,000	0
部会/分科会補	300,000	300,000	0
叢書編集委員会	24,000	24,000	0
叢書刊行補助費	700,000	500,000	200,000
内外諸学会分担金	150,000	150,000	0
幹事会費	100,000	100,000	0
本部費	1,020,000	1,220,000	-200,000
人件費	350,000	350,000	0
交通・通信費	400,000	600,000	0
事務費	50,000	50,000	0
ニューズレター発行費	200,000	200,000	0
雑費	20,000	20,000	0
学会賞関係費	250,000	250,000	0
業績リスト作成費	200,000	200,000	0
名簿印刷費	0	300,000	-300,000
名簿発行積み立て金	150,000	0	150,000
年報代金	2,600,000	2,564,700	35,300
予備費	300,000	400,000	-100,000
小計	7,694,000	7,748,700	-54,700
預かり金	690,000	690,000	0
次年度繰り越し金	1,555,226	1,432,968	122,258
合計	9,939,226	9,871,668	67,558

社会政策学会幹事会(97～98期第9～11回)記録

1. 学会賞選考委員の選出について(略)

2. 学会運営の基本方針について

(a) 幹事・監事選挙のあり方についてプロジェクト・チーム発足

伊藤説委員より幹事選挙について、さまざまな問題点が指摘された。伊藤幹事はかねてより選挙問題に疑念を呈してきた。今回、議論の結果、この問題について本格的な検討を行うことになり、プロジェクト・チームを編成した。

そのメンバーは、伊藤セツ、遠藤公嗣、熊沢誠、中原弘二、堀内隆治の5名である。98年春の幹事選挙には新規則で実施できるよう検討し、総会に提案する予定である。

(b) 学会大会のあり方についての問題提起

学会員の年齢も20歳代はごく少ない。学術会議の選挙についても会員数のいっそうの増加が望ましいところである。また、若手の会員からもっと参加機会を増やしてほしいとの要望があった。

そこで、院生会員を修士課程の学生にまで広げること、大会企画に若手の参加しやすい企画を設けること、等の改革を考える必要がある。具体的には、研究グループの集会の便宜を図る、ワークショップの開催、ポスタ

ー・セッションの新設などが考えられる。

また、学会が外部にもっと働きかける必要がある、との意見が寄せられている。かつては、学会が市民向けの後援会などに協力したことがあった。そこで、公開シンポジウムなど会員外でも参加できる催し物を開くなどして、一般市民へのアピールをすることも考えられてみてはどうか、との提案が西村豁通幹事よりあった。

具体的には佛教大学から11月の学会大会時に、社会政策学会と共同で公開シンポジウムを開催したいとの申し出が西村幹事に寄せられている。幹事会としても異存のないところであり、西村幹事に交渉を進めるよう依頼した。

3. 第95回大会(97年秋)の準備状況について

共通論題報告者は決定したが、残るコメンテーターを以下の通り決定し、企画を進めることになった。

コメンテーター(5名)

熊沢 誠、小林漢二、塩田咲子、下山房雄、堀内隆治

4. 第96回大会(98年春)の企画について(略)

5. 経済学会連合評議員の選出について

伊藤セツ幹事が学術会議経済研連委員に就任したため、後任の委員として、玉井金五幹事を選出した。なお残任委員は佐口和郎幹事である。

6. 会員の異動

(1)新入会

野畑真理子	のはたまりこ	都留文科大学文学部	産業社会学	木本喜美子、高田一夫
美甘 勉	みかみつとむ	東京農業大学生物産業学部	経営学	青山茂樹、平澤克彦
高橋睦子	たかはしむつこ	宮崎国際大学比較文化学部	福祉国家論	荒又重雄、小路行彦
桜井純理	さくらいじゅんり	立命館大学院国際関係学	国際コミュニケーション論	浪江 巖、熊沢 誠
大藪元康	おおやぶもとやす	中部学院大学人間福祉学部	社会福祉	野口典子、武田
橋本健二	はしもとけんじ	静岡大学		
橋 宋	うーじゅんうおん	東京大学大学院経済学研究科	労使関係、労務管理	佐口和郎、小野塚知二
猪飼 周平	いかいしゅうへい	東京大学大学院経済学研究科	労働経済学	佐口和郎、小野塚知二
中村 美由紀	なかむらみゆき	一橋大学大学院社会学研究科	社会保障、社会政策	西村豁通 高田一夫
上田 眞土	うえだまさし	京都大学大学院経済学研究科	労使関係論	菊池光造、久本憲夫
金 元重	きむ うおんじゅん	法政大学経済学部	韓国経済論、東アジア経済史	二村一夫、松崎義
岸本 聡	きしもと あきら	北海道大学大学院教育学研究科	労働問題	長沼信之、椎名 恒

(2) 退会者

上田千秋		山口女子大学社会福祉学部
村上尚三郎	教育福祉	佛教大学 社会学部
石倉三雄	中小企業論	岡山商科大学商学部
山下東彦	労務管理論	地域構造研究会
宝田 善	労働運動論	流通経済大学 社会学部

(3) 死去

比嘉輝幸	労働経済学、計量経済学	沖縄国際大学
河合幸尾	社会保障論、社会福祉論	立命館大学 産業社会学部
石崎唯雄	労働経済	独協大学 名誉教授

発行
社 会 政 策 学 会
代表幹事 高 田 一 夫
〒186 東京都国立市中 2-1
一橋大学社会学部高田研究室内
電話 & FAX 0425-80-8829

Email cs00051@srv.cc.hit-u.ac.jp
